



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース 25号

アサクサノリ生育観察事業

大森ふるさとの浜辺公園
における海苔生育実験

この事業は、地元住民による「アサクサノリ生育観察実行委員会」が実施しています。海苔のシーズンである冬の作業と海苔の生育について紹介します。

1、糸状体の培養(6月中旬～10月中旬)

昨年に引き続き、海苔の種である胞子を作る糸状体をカキガラで培養する作業に再挑戦しました。汲んで来た海水には多くの塩素成分や他の藻類、菌類等も含まれており、糸状体を培養することの難しさも学びました。そこで朝晩、欠かさず水槽内の海水温度の管理をし、塩素成分や他の藻類、菌類を限りなく排除させるための海水作りにも取り組みました。

2、竹ヒビのヒビ建てと支柱建て(10月26日)

昨秋、往時にならい実際に竹ヒビを建てる為に使っていた振り棒と

呼ばれる道具を使って浜辺近くの海に竹ヒビを建てました。その枝にカキガラの入った袋を結んで海底に沈め、海苔の種付け作業も行ないました。



今回、中富小学校より振り棒をお借りし、児童には作業の見学と振り棒の体験をして貰いました。

3、竹ヒビの海苔の生育(12月21日)

その二ヶ月後、浜辺に建てている竹ヒビに海苔が生長していることを確認しました。昨年に続き二度目の大きな成果です。現在、当館1階展示室には水槽を設置し、多くの来館者にふるさとの



浜辺公園で採れたアサクサノリを間近で観察できるようにしています。

4、陸上採描(11月1日)

現在の海苔養殖では一般的に行われている種付け方法で、この事業では初めての試みです。予め塩ビパイプで組んだ骨組みにブルーシートを被せた簡易プールを作り、そこに海水とカキガラを入れ海苔網



を浸すと海苔の胞子が付着します。さらに海苔網を海水から出したり浸したりを繰り返すことでその確率が高まり、強い海苔芽が海苔網に付着します。

5、網張り(12月21日～2月末)

今年は佐賀県で種付けされた海苔網と当館で陸上採描した海苔網を張り出しました。現在、海苔網を張る場所には限りがあるため、1枚ずつ張ると最大で3枚・3か所までしか張れません。しかし海苔網を複数枚重ねて張る

「重ね張り」の方法の場合、1か所に複数枚の海苔網を重ねて張ることが可能となるため結果、収穫に結びつく可能性が高まります。



6、海苔とり(12月27日～3月上旬)

いよいよ海苔の収穫です。元海苔生産者の手際の良さに驚くのと同時に冬の凍てつく海でも素手で海苔を黙々と採るその姿勢に往時を彷彿させる光景が甦ります。既に半世紀近い時間が経つ光景を目の当たりにすると正直言葉を失います。

今年も往時の海苔作業の様子を間近で見る貴重な機会となりました。(高橋)





館周辺の花さんぽ



大森 海苔のふるさと館が大森ふるさとの浜辺公園と平和の森公園の間にあることから、館周辺では四季折々、さまざまな花を楽しむことができます。今回は冬から春にかけての花を紹介します。

★冬に咲くロウバイ

1月、一面茶色でどこかさみしげな公園を浜から館に向かって歩いてくると黄色い花をつけた木があり、近付くと甘い香りがします。



る長野県東御市から贈られたもので、友好のシンボルとして可憐な花で私たちを楽しませてくれます。



鳥居桜

★草はらの小さな花たち

頭上ばかりでなく足元にも目を向けてみると、意外にもたくさんの花が目に入ってきます。オオイヌノフグリの青い小さな花は、まるで誰かが散りばめたかのように広がっています。他にもヒメオドリコソウやホトケノザなど、一般的には雑草とひとまとめに呼ばれてしまう草ですが、かわいらしい花をつけています。

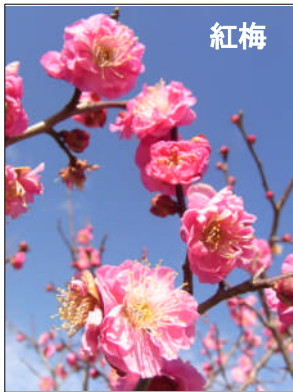
これからの時期、外を歩くのが気持ちの良い季節です。皆さん花を楽しみに足を運んでみませんか。(小山)



す。ロウバイです。葉より花が先に咲く中国原産の木で、公園では花びらの形が違う2種類のロウバイを見ることができます。

★梅と桜の共演

梅一輪一輪ほどの暖かさ (服部嵐雪)



紅梅

万葉の昔から日本人に愛されて止まない梅もまた、寒い中ぼつぼつと花を咲かせていきます。公園では紅白の梅を楽しむことができます。続いて、咲き始めるのが桜です。ふるさと館周辺には河津桜、鳥居桜、染井吉野、大島桜、山桜といくつものサクラがあり、2月から4月にかけての長い期間楽しむことができます。ふるさと館の前には河津桜と鳥居桜があります。2年前ガールスカウトの皆さんによって植樹された河津桜は、1955年に静岡県河津町で発見された種類で、桜の中ではいち早く咲きます。鳥居桜の木は大田区の友好都市であ

4月にかけての長い期間楽しむことができます。ふるさと館の前には河津桜と鳥居桜があります。2年前ガールスカウトの皆さんによって植樹された河津桜は、1955年に静岡県河津町で発見された種類で、桜の中ではいち早く咲きます。鳥居桜の木は大田区の友好都市であ



ヒメオドリコソウ



ホトケノザ



ハハコグサ



ツクシ

来館者が30万人を超えました!!

平成24年2月2日、20年4月の開館以来の来館者数が30万人を超えました。皆様のご紹介やご来館のおかげとお礼申し上げます。

大森の海苔の歴史やふるさと館のことがテレビやラジオ、新聞にしばしば取り上げられることもあり、近隣住民の方はもとより東京都内、神奈川、埼玉などからも多数の方々を訪れてくださっています。また、“海苔のふるさと”の歴史を伝える施設として全国の海苔に関わる方々にも知られており、羽田空港から立ち寄る方も増えています。

これからも、海苔養殖の歴史を伝えていくとともに公園やスポーツ施設に囲まれた立地を活かして、多くの方に来館していただける魅力ある施設にしていきたいと思ひます。(小山)

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」25号

平成24年3月1日発行
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号
TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347